

根羽村の歴史

古代・中世の根羽・月瀬村両村は三河の国に属していた。

平安時代(794年～1185年)後半、高橋新莊により現在の愛知県東加茂郡全域と豊田市・西加茂郡・北設楽郡及び長野県の旧根羽村・月瀬両村を含む広大な区域が成立した。

鎌倉時代(1185年～1333年)は加茂郡名倉郷に属し、鎌倉御家人の荘官足助氏の支配下に入ったと伝えられている。

南北朝時代(1331年～1394年)には加茂郡足助庄に属したとされている。

天文10年(1541年)には旧根羽村・月瀬村に及び、更に享禄年間(1582年～)には阿南町新野の関氏の勢力が三河に及んでいたとされている。

天文13年(1544年)8月13日、下條氏によって関氏は滅ぼされ、下條氏の支配下に入った。

弘治2年(1582年)新野峠が武田軍によって改修され、下條信氏が武節谷合戦で功を上げた。

元龜2年(1571年)4月、武田信玄南下作戦の一環として足助松山城が攻略され、根羽・月瀬両村はこの時以降武田領となり、三河国から信濃国に編入となった。信玄は三河攻めの際、三河の野田城攻撃中に肺肝を患い、根羽村で臨終を迎えたと伝えられている。

天正10年(1582年)武田氏滅亡により、織田知行所になり、同年、織田信長自刃により徳川氏の天領となった。以降、宮崎信州代官・飯島代官所支配などを経る。

慶応4年(1868年)尾州取締所預かりとなり、同年8月の廃藩置県により伊那県に編入となった。

明治4年(1871年)筑摩県、同9月に長野県となる。

明治8年(1875年)1月12日、根羽村と月瀬村が合併し、現在の根羽村となり、今日に至っている。

地域

16世紀までは、三河国加茂郡に所属していた経緯もあり、隣接する豊田市、さらに西三河の刈谷市・安城市とも交流がある。村内を流れ三河湾に注ぐ矢作川や、豊田市と通じる国道153号の影響で、愛知県西三河地域との結びつきが強い。